



沖縄キリスト教学院大学  
沖縄キリスト教短期大学

# 学報

第61号



←旧沖縄キリスト教団首里教会  
本教会内に沖縄キリスト教学院が  
設立される(1957年)



↑正門に立つ仲里朝章先生  
(仮校舎の首里教会) (1957年)

↓首里キャンパス1号館  
起工式(1960年12月)



←首里教会の鐘楼から  
1号館校舎を望む  
(1962年落成)

↓西原キャンパス移転  
(1989年落成)



↑沖縄キリスト教学院大学  
開学式(2004年4月)



↑沖縄キリスト教学院創立50周年記念  
SHALOM会館供用開始(2009年4月)



## 講演者川平朝清氏と沖縄キリスト教学院歴代学長 沖縄キリスト教学院大学開学10周年記念講演会にて

(左から) 中原俊明氏(第8代)、神山繁實氏(第6代)、金城重明氏(第3代)、大城実氏(第4代)、  
平良修氏(第2代)、Randolph H. Thrasher氏(第7代)、川平朝清氏(元副理事長)

- \* 理事長・学長メッセージ .....02
- \* 沖縄キリスト教学院大学開学10周年を迎えて .....04
- \* 大学・短期大学トピックス .....06
- \* 大学・短期大学共催 .....08
- \* 羽ばたく卒業生 .....09
- \* 行事 .....10
- \* キリスト教 平和 活動 .....12
- \* 国際交流活動 .....13
- \* 学生支援 .....14
- \* cafe特集 .....15
- \* 2014年度おもな図書館行事 .....16

### CONTENTS

- \* 採用教員メッセージ .....17
- \* 研究助成費獲得による研究活動 .....17
- \* 沖縄キリスト教学院大学名誉教授称号授与 .....18
- \* ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞授与 .....18
- \* 2014年度人事 .....18
- \* 2013年度決算報告 .....18
- \* 寄付感謝報告 .....19
- \* 同窓会・後援会 .....19
- \* Open Campus 2015 .....20
- \* 大学見学 .....20

2014年度  
キリスト教活動年間テーマ

キリストの平和 ～沖縄から世界へ～

— The Lord's Peace : from Okinawa to the World —

沖縄キリスト教学院は今年で創立58周年を迎えます。沖縄キリスト教学院は、プロテスタント・キリスト教の教えを建学の精神として、沖縄に限らず、国際的に貢献する人材の育成のため、1957年に首里教会内に設置され、その後、首里城の一郭に移転し、1989年に西原キャンパスに移転し、その後、既存の英語科・保育科に加えて、2004年には四大の人文学部英語コミュニケーション学科、2008年には大学院を設置しました。

建学の精神は、私学教育の中味を問い直す大切な基準となります。特に、教員養成との関わりの中で、色々と問題が出てくるような気配が窺えます。最近、日本の教育をめぐって、文部関係の審議会や有識者会議で、現在の学校教育を問い直す指針として、「道徳の教科化」の動きが顕著になってきています。数年前のことですが、ある地方自治体では、幼稚園の入園、卒園時に「日の丸・君が代」の義務化が起こり、それに従わないキリスト教幼稚園には公的補助を出さない、という通達があったようです。最近の動きとして「道徳」を「教科化」して、道徳の授業に国定教科書をはめ込むことが予定されている、との印象を強く受けます。この試みは拡大され、国の方針が適用されても不思議ではないという印象を強く感じます。

このような危機は、過去2度程ありました。一度目は明治30年代に、天皇制にそぐわない学校教育は、公的教育機関としては認められない、というものでした。当時、日本にあったプロテスタント系の学校が一堂に会してこの措置に異議申し立てをすることを決議して、交渉を重ね、文部省は学校同盟との協議の結果、キリスト教系私学の存続が可能になりました。二度目は、第二次世界大戦終結前に政府が同じような方針を出したが、終戦を迎えて自然消滅した経緯があります。

今回は道徳教育の「教科化」を実施する動きは顕著で、明治以来、この試みは三度目になるかもしれません。特に、教職課程では、道徳の「科目化」の動きには要注意でしょう。今の段階ではこれ以上触れませんが、建学の精神の理解を深めていく必要があるように思います。



学校法人 沖縄キリスト教学院

理事長 神山 繁實



沖縄キリスト教学院大学  
沖縄キリスト教短期大学

学長 中原 俊明

1. この国の教育制度のもとで、若者たちは、高校まで限りなく国定に近い検定教科書と向き合いつつ育っています。そこでは、しばしば同質性、画一性に傾き、「みんな違ってみんないい」(金子みすゞ)という個性尊重から遠ざかっています。その結果は、この国全体のあり方にも影響し、戦後日本の代表的知識人・加藤周一が指摘したように「開国以来、精神の鎖国は今日まで続いている」状況となっています。
2. いま若者が外の世界に目を向けず、内向きになる傾向が心配される中、本学院は、この状況を変える教育を目指します。1957年にスタートした「キリ短」は英語と保育で社会のニーズに応える人材を送って貢献しつつ、2004年には4年制の「キリ学」(人文学部)を立ち上げ、昨年で丁度10年の歴史を記しました。700人余の卒業生を世に送り出し、中にはアメリカの大学へ進学し、博士号を目前にしている者もあります。キリ短も含めると、1万数千人の卒業生たちが国の内外で活躍しています。
3. 通常、私立の大学や短大は、固有の建学の精神をもち、その下で特色ある教育を実践します。本学院の場合、キリスト教、沖縄、平和こそ建学のキーワードだと理解しています。建学の中心人物は、仲里朝章氏でした。氏は、戦前、東京帝大在学中に洗礼を受け、内村鑑三の影響下のキリスト者になりました。1939年に帰郷し、那覇商業学校の校長を務めました。しかし、時代は軍国主義の只中で、天皇のための死を教え、教え子たちを死の戦場へと送る皇民化教育をせざるを得ませんでした。沖縄戦では自身も瀕死の重傷を負い、九死に一生を得ましたが、氏の戦後は懺悔と教え子たちへの謝罪から始まりました。牧師として再出発したとき、沖縄の将来は、キリスト教精神で教育を受けた次世代によって、平和の島として蘇るべき、との信念から本学院の設立を思い立ったのです。
4. 本学院では、歴史的に禁制とされてきた世界最大の宗教であるキリスト教を基本に、ローカルの次元では沖縄を the keystone of pacifism となし、グローバルのレベルでは peace making に貢献できるコスモポリタンな人材を世に送る教育を目指します。God bless you all!

「精神的鎖国」を脱し、コスモポリタンを目指そう！  
— 建学の精神(キリスト教、沖縄、平和)に立って —



## 人文学部・英語コミュニケーション学科の 10周年を迎えて

沖縄キリスト教学院大学 人文学部長

キム ヨン ス  
金 永 秀



2004年4月1日の開学以来、沖縄キリスト教学院大学がその教育活動の中で最も重要な事として位置づけてきたのは、大学名、学科名にあるとおり、「沖縄」から「キリスト教」と平和の理念に基づき、世界の人々と深く「コミュニケーション」を取ることのできる人材を輩出することです。そのためには、英語力のみならず国籍、人種、文化、宗教、ジェンダー等の壁をこえて理解しあう感性と、リベラル・アーツ教育(単なる教養教育以上に深い歴史性と思想性を持ち、個人個人の生き方に関わる知識)が重要です。具体的には、以下の三つの領域が定められました。1)英語教育、2)国際・サービス、3)国際・ビジネスです。2008年には大学院も発足し、「異文化交流」「英語教育」の二分野の高度なアカデミックトレーニングを目指してきました。

「英語」を重点的に教育してきたのは言うまでもありません。「サービス」の領域では「国際平和文化交流センター」を立ち上

げて、台湾の長栄大学、中国の華中師範大学、深圳大学等との協定と交流をおこない、NGO「One Love」は世界の貧困問題等を取り扱う実践的活動をおこなってきました。又、「ビジネス」の領域では、国際・ビジネスプログラムが組まれて、「金融講座」や「ビジネス研究会」等の活動を行う等、充実をはかって来ました。

これまで、卒業生の中から米国の大学に進学し、博士課程にまで進んだ者、国内の大学院に進学した者、就職してビジネス関係で活躍する者等を出しました。又、教職免許プログラムからも3名の公立中学校の教員採用者を輩出することが出来ました。

今後、これまでの教育の在り方を確認しつつ、止揚、発展させることが求められています。社会の変動に即したダイナミックさと共に、変わることのない真理を探究することが、これからも本学の教育・研究活動の根幹であると考えます。

### 在学生代表

#### Happy birthday to OCU

英語コミュニケーション学科 2 年次  
(2014 年度学生会長)

渡 慶 次 智 実



沖縄キリスト教学院大学は開学10周年という節目を迎えました。このような素敵な年を迎えられたのも、キリ学を応援しサポートしてくれている皆様、先生方、そして先輩方のおかげだと思っています。私は本学に入学し多くの人と出会い色々な事を学びました。その中でも、私たち学生一人一人に目を向け可能性を示してくれる先生方や、常に前を走り私達をリードしてくれる先輩方、そして何より共に本音をぶつけ合い切磋琢磨できる仲間たちとの繋がりはかけがえのないものです。この繋がりがあったからこそ今こうして笑いながらキリ学愛を語れているのだと思います。この感謝の気持ちを何か形に、または行動に移したいと思い、学生会長としてこの一年間、学内を盛り上げ活性化できるような行事や活動に取り組んできました。そして、学生会活動を通してまた一歩、成長した新しい自分に出会えた気がします。学生会の活動が終わってもキリ学の発展に尽力できればいいなと思っています。10年、20年、100年たってもこの大学が笑顔であふれる大学でありますようにと、本学のますますの繁栄を願うとともにこの挨拶の結びとさせていただきます。

お誕生日おめでとう！

### 卒業生代表

#### 沖縄キリスト教学院大学との 出会いを人生の分岐点に

英語コミュニケーション学科 1 期生  
(本学非常勤講師)

山 内 淳



沖縄キリスト教学院大学開学10周年、おめでとうございます。第1期卒業生として、心よりお喜び申し上げます。

今振り返ると、キリ学での4年間は今までの私の人生の中で最も大切な時間でした。アメリカの大学院で修士・博士課程へと進んで学業に邁進出来たのも、全てはキリ学での4年間に英語を徹底的に鍛えて頂き、アカデミックな視野を広げる知的な訓練を日々与えられたことに尽きると感じます。改めて、熱心に指導して頂いたキリ学・キリ短の先生方へ感謝申し上げます。

2014年4月より、非常勤講師として母校であるキリ学で後輩を指導する機会が与えられておりますが、大変嬉しい思いと同時に卒業生として大きな責任も感じております。一人でも多くの後輩たちが、私も経験したようにキリ学との出会いが人生の大きな分岐点となるような学生生活を送って頂きたいと真に願います。後輩のみなさんには、沖縄キリスト教学院大学との「出会い」を大切にしてください。

10周年という節目を経て、沖縄キリスト教学院大学がこれまで以上に沖縄における高等教育に資する大学として発展していくことを強く信じております。

**現 在**  
学校法人ゴスペル学園 ゴスペル幼稚園 副園長兼事務局長  
沖縄キリスト教学院大学 英語コミュニケーション学科 非常勤講師

**最終学歴**  
米国ジョージア州立ジョージア大学 国際関係学部 博士課程後期修了  
専攻：国際関係学・比較政治

## 沖縄キリスト教学院大学 開学10周年記念講演会

沖縄キリスト教学院大学は10月15日、那覇市にあります沖縄県立博物館・美術館にて、「沖縄キリスト教学院大学開学10周年記念講演会」を開催し、卒業生をはじめ歴代学長や学校関係者など220名のご来場がありました。

講演会は本短期大学卒業生である阿佐慶涼子氏の司会のもと、午後6時より青野和彦宗教部長の開会祈祷で幕を開けました。第一部はアトラクションが行われ、フリー救急医でありながら、沖縄交響楽団コンサートマスターを務める林峰栄氏と国内外のコンテストでグランプリを受賞後、現在ピアニストとして活躍されている宮里恵氏(ピアノ伴奏)による「バイオリン独奏」を披露して頂きました。今回、初共演となるお二人ですが、そのトップクラスの音色は心に響く圧巻の演奏でした。続いてアイモコによるデュオでは、農家(ハルサー)と音楽家(ミュージシャン)のふたつを融合させた音楽作りで、その楽曲は家族みんなが口ずさめる軽快なリズムで会場全体が和やかな雰囲気になりました。



青野和彦 宗教部長



(左から)林峰栄氏と宮里恵氏



ハルサーミュージシャン アイモコ



司会の阿佐慶涼子氏

第2部の講演会では始めに中原俊明学長が主催者挨拶を行いました。挨拶の中で中原学長は「本学の建学の精神の中心人物は仲里朝章牧師であります。戦前、皇民化教育のなか多くの学生を戦地へ送り出し、死なせた事を後悔し謝罪をしました。その経験のもと本学院を立ち上げた仲里朝章先生を副理事長の立場で支えて頂いた川平先生のお話は示唆に富むに違いないと思います。今回の講演を引き受けて頂いた事に歓迎とお礼を申し上げます。」と述べました。



中原俊明 学長



本学院元副理事長 川平朝清氏

基調講演は神奈川県在住で本学院元副理事長の川平朝清氏による「沖縄キリスト教学院と仲里朝章」という演題で行われました。川平氏は講演で当時の陸軍政府の影響の大きかった沖縄県の状況、首里教会での仲里先生との出会い、そして仲里先生の「こだわり」について話して下さいました。「仲里先生のこだわりの中で一番印象に残っているのは内村鑑三の書いた『デンマルクの話』です。その一文ですが『国の實力は、軍の力でもありません、金でも銀でもありません、信仰の力であります。』この言葉が常に仲里先生の考えにあり、後の仲里先生の行動に影響しているのではないのでしょうか。」そして本学への提言として、仲里先生が本学院開校式で述べられた一文を紹介して下さいました。「われわれの学院もキリストの精神による教養科目を主として一般新時代に適用する青年学徒を養成し各社会の面にまた将来は農村ならびに海外移住者の精神指導者をも養成して将来の沖縄が福祉社会として向上発展する有力な担当者を養成して新沖縄の発展に進出せしめて行きたいと祈っております。この言葉が仲里先生の“志”ではないのでしょうか、私は沖縄キリスト教学院に仲里先生の“志”をもう一度思い起こして頂きたい。それは、沖縄の農林畜産業に関心と関与を持ち、沖縄が復興に際し多大な貢献をして下さった、海外移住者(沖縄県人会)に敬意を表し、沖縄ディアスポラ(種を蒔く)の研究、交流することを沖縄キリスト教学院大学へ提言したい。そして、ぜひ仲里先生の“遺志”を引き継いで今後発展される事を祈っております。」との激励のお言葉で講演会の幕は閉じました。



レセプション



(左から)川平氏の奥様、川平氏と金永秀人文学部長

講演会終了後のレセプションでは、30名ほどの関係者で歓談を交えながら「沖縄キリスト教学院」創立と「沖縄キリスト教学院大学」開学10周年を振り返り、大いに盛り上がりながら全てのプログラムを終了致しました。

## 英語コミュニケーション学科 教職課程

教育実習での学生の研究授業を参観に行くと、時折、キリ短出身の英語の先生に出会うことがあります。「〇〇教授にお世話になりました。私たちの頃のキリ短では・・・」といったお話をうかがったりします。そのたびに「英語のキリ短」という言葉が思い返され、キリ短出身英語教師の沖縄の教育界で占める存在感の重さを感じさせられます。

10年前に四大が立ち上がった際に短大での教員養成が終わり、四大へと引き継がれることになりました。それから8期目の卒業生を世に送り出すことになりました。中学・高校の英語の一種免許を授与した学生は100名を超えました。昨年に引き続き、今年度も、難関である沖縄県の教員採用試験に合格者を輩出しました。さらに、多くの卒業生が非常勤や補充という形で沖縄の教育界を支えています。昨年末には、1回目の教職同窓会も催し、旧交を温め、今後の飛躍を誓い合いました。今後、ますますキリ短出身の英語教師が沖縄の教育の場に進出し活躍することを大学スタッフとして支えてゆきたいと思えます。今年度、教職課程を修了した14人の学生の今後にも大いに期待します。



## 入学前教育

4月からの大学生活に備えるため、スクーリングや課題を通して行う学びプログラムです。

**【英語コミュニケーション学科】** 英語コミュニケーション学科では、AO入学者に対して3回のブリッジプログラムを行います。課題は大きく分けて2つ。一つ目が、英語関連課題で、日々、英文法を中心とした課題にインターネット上で取り組みます。3回の登校時に、オーラルイングリッシュの授業などを体験します。もう一つが、新聞スクラップ帳の作成です。登校時に、新聞記事を少人数グループ内で発表し議論をし、大学のゼミ体験を行います。

**【英語科】** 英語科では計3回のブリッジ・プログラムを行っています。内容は、英語科の教員の自己紹介、英語の学び方のヒントや要約筆記の技術、先輩学生たちからのアドバイス、LL体験授業、単位取得・留学・TOEICテストの説明、総合教育系やその提供科目についての説明などです。AOによる入学予定者には特別な課題を、さらにすべての入学予定者に英語の課題を課して、入学後の学習にスムーズに入れるよう配慮しています。

**【保育科】** 現在、最も早く合否が決まるAO入試では、①新聞スクラップ②個人プロジェクトを課した入学前教育を行っています。①は新聞を読む習慣を養うことと、本学教員とのやりとりを通して思考力を鍛えてほしいという狙いからです。②は課題設定・調査・発表により、モチベーションを保ちスムーズな入学後の学びへつながることを想定しています。また、全合格者向けにブックリストを配布し、入学前に読むことをお勧めしています。学生たちの学びが豊かなものになることを願いながら。

## 大学院 大学院講演会

2014年11月1日と2日、本大学院異文化コミュニケーション学研究科は、国際シンポジウムを開催しました。インドやオーストラリア、カナダやアメリカ合衆国、ベトナムや沖縄県内外から報告者とゲストスピーカー、多くの一般参加者が集い、熱い議論を交わしました。シンポジウムのテーマは、「枯葉剤の対話と言説—人権・環境・パワーのポリティクス—」でした。時として政府や企業が戦争や利益のために枯葉剤のような毒薬を利用する過程や手段を、研究者のみならず活動家も積極的に発言し、私たちが「知る」権利について議論しました。基調講演では、ジャーナリストのジョン・ミッチェル氏の話を耳を傾けようと、シャローム館の会場が満席になりました。ベトナム戦争時代に、沖縄で枯葉剤が貯蔵・使用されていた事実を、彼は長年の調査によって明らかにしました。琉球大学の河村雅美氏は、先日沖縄市で発見された枯葉剤の影響を、政治的ならびに環境の側面から議論しました。グエン・ティ・ヒエン氏は遥々ベトナムから参加し、今なお続く枯葉剤の環境や人々への影響について述べました。インドのボパールやインドネシアともスカイプを使って会議を開催しました。沖縄と世界を結んでの国際シンポジウムでは、枯葉剤を巡る深刻な現状を確認するとどまらず、「未来へ向けて何がなされるべきか」という重要な課題についても多くの議論を重ねました。



## 英語コミュニケーション学科

### 第25回イチャリパチョーデーJAL琉球民謡大会出演 うちなーの心熱唱！ 准教授 Christopher Valvona

去る12月4日にホテル日航那覇グランドキャッスルにて本学生4人、事務職員1人と共に沖縄民謡「谷茶前」を披露しました。準備にかかった期間は2ヶ月。選曲後、池田史花さん(英コミ3年)と島袋美子さん(英コミ4年)が三味線をマスターし、それに合わせて国頭まいさん(英語科2年)と仲間彩乃さん(英語科2年)が振り付け、サンバの早川知里さん(職員)が加わり私たちの民謡グループが結成されました。沖縄民謡初体験の私は、才能あふれるメンバーの指導の下(今回は私が生徒です)どうにか無事に舞台を終える事が出来ました。大会では優勝とはいきませんでしたが、メンバー全員楽しむことが出来、「はなはな賞」を頂きました。今年は元旦に親戚一同その民謡大会のテレビ観戦でスタートしました。チャレンジして良かった、新年早々達成感にあふれる年になりました。



## 英語科

### 『Introduction to English Study』、 夏期集中英検講座、 多読クラスとTOEIC-IPの連携

英語科では今年度から、『Introduction to English Study』と題して、新入生のための3日間の集中講義を始めました。大学生生活に早く馴染んでもらうことを目的とした内容は、「辞書・参考書の使い方」「Oral English クラスでの心構え」「LL教室の使い方」「リスニングのコツ」「Basic Grammar」などです。4月初めに実施しましたが、評判はよく、1年生たちが大学の授業にスムーズに入っていく手助けになったのではないかと思います。夏休みには、学習支援センター(武村准教授)の応援を得て、英検準2級、2級の対策講座を3週間行いました。暑い中でしたが、出席した学生たちはしっかり学べたと思います。また今年度から、多読クラスでの上位者にはTOEIC-IP無料受験券を進呈することにしました。大量の英文を読み、かつTOEICを受験することで学力を上げていくことを期待しています。

## 総合教育系

### 第5回総合教育系特別公開講座

地域に対して開かれた短大でありたいという願いと、在学生にも通常授業では得られない知識を得てほしいという願いから、特別公開講座を実施している。過去の内容としては、「10「異質・少数者は厄介者か? いえいえそうではありません」中原俊明氏(現:本学学長)、「11「契約の基礎知識」鈴間淳一氏(弁護士)、「12「琉球方言のおもしろさ」ウェイン・ローレンス氏(オークランド大学上級講師)、「13「共同売店に学ぶ『シマ』の知恵」真喜志敦氏(共同売店ファンクラブ事務局)と、バラエティーに富んだ内容となっている。

今年度は、2015年1月29日、「観光の新しい潮流と沖縄～エコツーリズムと着地型観光を中心に～」と題し、沖縄～エコツーリズムと着地型観光を中心に～と題し、沖縄観光について、豊富な写真やデータ、またホームページを使いながら、その歴史的概略、新しい潮流としてのオルタナティブツーリズムや着地型観光、南城市における具体例、そして平和を実現するための観光業について、解説いただいた。当日は一般の方および在学生18名が参加し、これからの沖縄観光について考える機会となった。



## 保育科

### ワイワイプラザ(地域子育て支援実習) の発展を目指して

2008年度からスタートしたワイワイプラザinキリ短(地域子育て支援実習)も7年を迎えました。

本プログラムは、保育科1・2年生が合同クラスとなり、「子育て支援とは何か」を考え、「親子が共に過ごす空間づくり」をテーマに行っています。

本年度は、従来通り季節・行事に合わせたプログラムを大学で開催するだけでなく、キッズニア(子ども職業体験シミュレーション)を参考にした体験型親子支援イベントや、大学を飛び出し保育園でもプログラムを行いました。

子どもたちが、笑顔でプログラムに参加してくれたり、自分で作った作品を手に帰っていく後ろ姿も印象的です。参加して下さった保護者からは、「普段は見られない子どもの一面が見れてうれしい。」「工夫があり楽しめました。」「保育者を目指して頑張ってください。」「1・2歳児でも楽しめるプログラムを期待します。」などの意見がありました。来年度も、新しいワイワイプラザ(地域子育て支援実習)のあり方を目指していきたいと考えています。



## 保育科

### 保育ボランティア体験

保育ボランティア体験という科目は、他の短期大学・大学にはあまりみられない本学独自の必修科目です。

その発端ですが、それは保育園や地域行事の人的要請に対し、養成校として出来る事はないかという検討からでした。

現在、本学科の学生は入学してすぐの一年次前期から保育ボランティア体験の指導がなされますが、実質的には、施設実習(一年次1月～3月)や保育実習I(二年次6月)に行く前の「プレ実習」的なカリキュラムとしても位置づけられています。

この保育ボランティア体験で一年次は、入学後、初の現場経験をまさに「体験」するわけですが、そこでは子どもが好きで保育に関心があるという「地点」から、具体的な保育の現場を実体験する最初の機会となります。

また、同時に、社会人としてのマナーや保育専門職としての「保護者からの視点」や「地域での役割」も体験していくわけです。

若干、過渡的な段階のカリキュラムの為、今後は完全な「プレ実習」として確立するか、あるいは完全な「ボランティア活動」として考えるかという再検討が必要ですが、保育現場の要請と養成校としての責務を鑑みつつ、保育現場への最初の出会いという基本的観点を大切にしながら、今後よりよい本学の保育ボランティア体験のありかたを探っていけたらと思っております。

同時通訳集中講座

【2014年8月1日～8日】

本講座は今年度で22回目となりました。主任講師の宮田燿彰先生と本学講師陣(David A. Ulvog、柳田正豪、城間仙子)に加え、外部講師として宮国薫子先生(琉球大学観光産業科学部講師)にも講義をご担当いただき、幅広く豊かな内容の講座実現にご協力をいただきました。

今年度の特別講演には、沖縄伝統空手総合案内ビューロー事務局長であり「沖縄空手通信」の編集をされているミゲール・ダルーズ氏をお招きしました。講演(英語)は「沖縄と世界を結ぶ空手 一情報発信と受け入れの重要性」と題し、世界における沖縄伝統空手の位置づけの現状と、沖縄伝統空手についての情報発信ならびに海外から沖縄伝統空手を学びに来る外国人に対するサポートをしているダルーズ氏の活動について、貴重なお話を賜りました。講演の同時通訳(英→日)については、今回は初級クラスも含め受講生全員で行いました。特に初級クラス受講生は大変緊張したようですが、貴重な経験と学びになったことでしょう。

今年は講座開催中に大きな台風が2つ発生し、本島を直撃するおそれもありました。常に台風情報と睨めっこをしながらの運営となりましたが、幸い休講することもなく、おかげさまで無事予定通りに8日間の日程を終えることができました。学内外からのご協力に感謝申し上げます。



学内英語弁論大会

【2014年11月8日】

11月8日(土)、沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学主催による、第34回学内英語弁論大会が開催されました。スピーチの持ち時間は5分程度で、英語で自分の経験や考察を述べるというものです。今年度は、短大英語科、四大英語コミュニケーション学科から10名の学生が参加しました。洋楽を歌ったり、三線を弾いたりするスピーカーもいて愉快的雰囲気を足してくれました。スピーチはどれも素晴らしく、入賞者を選ぶのにかなり時間がかかりましたが、キリ学の3年次、英語科の1年次と2年次が入賞を果たしました。

今年度は、元沖縄県副知事で沖縄ガリオア・フルブライト同窓会長の比嘉幹郎先生が審査員として参加し、ガリオア留学生の文集『ガリオア留学生の足跡』を出場者全員に贈呈してくださいました。

第1位	砂川 綾貴子 英語コミュニケーション学科3年次	Beauty is More Than Skin Deep
第2位	方 環 然 英語科1年次	The Gift of Life
第3位	呉屋 成美 英語科2年次	To Be a Woman Who Plays an Active Role in Society



高校生英語弁論大会

【2014年12月13日】

第26回高校生英語弁論大会が12月13日、仲里朝章記念チャペルで行われました。

沖縄県内の高校から12名の高校生が「二重国籍」「ウチナーグチ」「投票年齢」など様々なトピックについてスピーチを行いました。すべてのスピーチがテーマについて長時間リサーチされ、一貫して説得力があり、聴衆を引き込んでいきました。どのスピーチもdelivery(話ぶり)がパワフルでよく練習されており、引用語句や例証を用いたテクニックの高さに審査員たちは感心させられました。

入賞者を選ぶのは大変難しかったのですが、第1位には那覇国際高校の砂川文音さんが選ばれました。失敗から学ぶというテーマについて成熟した思考を示し、話ぶりは非の打ちどころがありませんでした。第2位は沖縄尚学の謝敷ナタリーさん、第3位は首里高校の前川南さんに与えられました。

スピーチ後の質問に当意即妙の返答をした球陽高校の上原美香さんにはBest Impromptu賞が与えられ、学長賞には真和志高校の儀武姫花さんが選ばれました。



第1位	砂川 文音 那覇国際高等学校3年	Failure is the Seed of Your Life (失敗は人生の種である)
第2位	謝敷 ナタリー 沖縄尚学高等学校3年	Two Countries, One Heart, One Me (二重国籍を持つ私)
第3位	前川 南 首里高等学校2年	What is Love? (愛とは何か)
Best Impromptu賞	上原 美香 球陽高等学校2年	Lower the Voting Age (選挙年齢の引き下げ)
学長賞	儀武 姫花 真和志高等学校3年	Below Zero (マイナスから)

「沖縄県公立学校教員候補者選考試験」合格者の声

「夢」

英語コミュニケーション学科 2期生 屋宜 大仁

私が英語教員を目指したのは、大学進学を決めた時でした。大学入学後、周りの人達の英語力の高さに驚き、教師になるためにはもっと勉強しないとイケないと痛感しました。そこで、山里先生の課外の勉強会や月曜礼拝での同時通訳、村田先生のラジオ英会話サークル等へ参加し、常に教師になるため英語力向上に努めました。また、教師という仕事を少しでも知るため、小学校へ英語を教えるボランティアをしました。このボランティアや教育実習を通して、教師になりたいと一層強く思うようになりました。

しかし、卒業後、臨時教諭として勤務し、教師という仕事の大変さを知りました。特に、一年目は、学級経営や教科経営等、何をやってもうまくいかず、毎日苦しかったです。「教師に向いていない」と自信を無くしていましたが、先輩教師や大学時代の同期の支えや助けでなんとか乗り越えることができました。その時、次年度の臨時教諭継続の話を頂きました。「あと一年頑張ってみよう。それでうまくいかないなら教師になることを諦

めよう」と決め、継続しました。うまくいかない事はたくさんありましたが、やっぱり教師は楽しく、教師としての仕事にやりがいを感じることができるようになりました。

教員採用試験に合格し、これからずっと教師として働くため、毎日必死に勉強しました。勉強中も「本当に合格できるのか」等、不安はたくさんありました。実際、一次試験は合格したものの、二次試験で不合格になったこともありましたが、それでも諦めず勉強を続け、7回目の採用試験でついに合格することができました。合格通知を受け取ったときは、言葉では表現できないほど嬉しかったです。

私は、教員採用試験に合格し、教師としてのスタートラインに立つことができました。教師になるまでに時間はかかりましたが、たくさんの経験をすることができました。私が経験したことを教師として生徒に伝えていきたいです。また、今後も、教師としての資質を高め、常に自己研鑽に励み、生徒と共に成長していきたいです。

略歴

2009.3	沖縄キリスト教学院大学 卒業	2011.4～2013.3	南城市にて、臨時教諭として勤務
2009.4～2009.11	浦添市役所にて、臨時職員として勤務	2013.4～2013.6	浦添市役所にて、臨時職員として勤務
2009.12～2010.3	八重瀬町にて、非常勤講師として勤務	2013.9～2014.4	南風原町にて、臨時教諭として勤務
2010.8～2011.3	貿易事務として民間会社に勤務	2014.4～現在	南風原町と豊見城市にて、非常勤講師として勤務



英語コミュニケーション学科3期生 高須賀(仲村)明菜

挑戦し続ける強さをもらったキリ学時代

お昼休みに英語のスキルアップを目指すメンバーで勉強をしたり、毎週月曜の朝の礼拝の同時通訳に参加したり、本学のラジオ番組でDJに挑戦したりと、在学中は多忙な日々を送りました。どんなに忙しくても講義は絶対に休まない、1コマ90分という短い学びのチャンスは絶対無駄にしない、と自分の中で決

まわりごとを作り、日々講義に臨みました。

3年次に本学の派遣留学制度を利用し、アメリカのポートランドへ正規留学しました。帰国後は、就職か進学か決断できないまま4年次になり、就職活動をしながら母校で教育実習をしました。そこでこれまでの興味が本格的に将来の夢へと変わり、スクールカウンセラーになりたい、沖縄の子供たちのメンタル面を支えるという形で沖縄に貢献したい、と思うようになりました。東京のIT関係の会社から内定をもらいましたが、結局進学の道を目指すことにし、県費留学を受験、無事選考試験を通過し、

オーストラリアの大学院に進学することになりました。大学院での勉強は、新しい分野を外国語で一から学ぶ苦しみ、本当にこの道で良かったのだろうか、という迷いから一時は帰国を真剣に考えたこともありましたが、送り出してくれた本学の教授たちのサポートのおかげもあり、結果的にはどうにか喰らいつき、実習までこぎつけました。実習では、DV被害に苦しむ家族や、自傷行為を繰り返す学生など、色々な人たちのサポートをしました。現在では現地NPO法人で、電話相談員のボランティアをする傍ら、興味のある分野の研究を続けています。

本学で学んでいた頃、何か新しいことに挑戦したいと思ったとき、「NO」という先生は一人もいませんでした。何をすることも不安だった私の背中をいつも、「大丈夫、君ならできる」と押し付けてくれた教授陣に出会えたこと、本学には感謝の気持ちでいっぱいです。これから社会に、世界に出て行く皆さんは、夢や目標を常に持ち続けること、どんなに高い目標のように思えても目の前にある壁から逃げないことを大切にしたい、と思います。自分にはだめだ、無理だと思ったらそこで終わりですが、きっと何かできるはず、と自分を信じてコツコツ進んでいけば、何かしら道は開けるのです。

略歴

2010.3	沖縄キリスト教学院大学 卒業	2014.5	オーストラリアカトリック大学
2010.4～2011.1	通訳・翻訳派遣会社で通訳として勤務しながら進学準備		心理学部 臨床カウンセリング専攻
2011.2	オーストラリアカトリック大学 入学 (沖縄県人材育成交流財団奨学生として)		修士課程後期修了修士(臨床カウンセリング)
		2015.1～	現地NPO法人でボランティアの傍ら研究を続ける

今年度も沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学合同で様々な行事が行われました。

2014年11月9日、10日  
第50回 キリ学祭

テーマ ～結～ Hand in Hand(繋がる手、広がる輪)



地域・団体、たくさんの人に支えられて

英語コミュニケーション学科2年次(2014年度学生会長)

渡慶次 智実

キリ学祭は今回で第50回という記念すべき年を迎えました。「結」という文字をテーマに掲げ、皆様に学園祭を通して何か新しい発見や繋がりを見つけてもらい素敵な時間をお届けできればと思い、取り組んできました。地域とのふれあいを目的とした西原高校マーチングバンドの演奏や、さうんど保育園の園児による演舞、DIAMANTESをはじめとする沖縄のアーティストをメインに幅広い世代や地域の方々に楽しんでもらえるようなプログラム構成を心掛けたことで予想以

上の結果を残すことができました。

今年度は学生の自主企画に力を入れ、カラオケ大会や千代田プライダルハウス様のご協力のもと素晴らしいミス・ミスターの演出をすることが出来ました。学園祭を開催するにあたって地域の方や協賛して頂いた企業、キリ学祭運営に関わってくれた方々、たくさんの人に支えられていたからこそ私たちはキリ学祭を成功させることができました。この場を借りてお礼を申し上げます。ご支援ご協力ありがとうございました。



2014年4月1日

入学式

沖縄キリスト教短期大学(第58回)、沖縄キリスト教学院大学(第11回)、沖縄キリスト教学院大学大学院(第7回)入学式が本学体育館で執り行われました。期待に胸をふくらませ、短期大学191名(英語科新入生67名、再入学1名、保育科新入生123名)、学院大学112名(新入生99名、編入学生13名)、大学院2名が入学しました。系数なつきさん(英語科)、宮城愛里さん(保育科)、松堂由莉さん(英語コミュニケーション学科)の3名が新入生代表として挨拶を行いました。

入学式後に保護者向け就職ガイダンスが行われ、就職に関する概要と保護者のサポートが大切であることを説明しました。

また、10月1日に、沖縄キリスト教短期大学(第21回)、沖縄キリスト教学院大学(第4回)秋季入学式が本学チャペルにて執り行われ、新入生4名(短大英語科1名・大学3名)、大学編入生1名が入学しました。



入学式



秋季入学式

2014年4月19日

スポーツデー

学生会主催で恒例の新入生歓迎スポーツデーが開催されました。バレーボールを中心にクラス対抗のトーナメント方式で対戦。お揃いのTシャツを作成し、円陣を組んだり、声が張り裂けるほどの応援をするチームもあり、一致団結!エキサイティングなプレーや応援合戦で盛り上がりました。また、久々に5色綱引きが登場し、力と頭脳の駆け引きも見物でした。プレーの合間の弁当会もとても楽しめました。



新入生オリエンテーション

大学 2014年5月14日～5月16日

例年、渡嘉敷島で開催される新入生オリエンテーションキャンプは、今年もたいへんな盛り上がりを見せました。キャンプ初日では、集団死を経験した金城重明先生の講話を聴き、その現場を訪れて命の尊さや戦争の悲惨さ、そして建学の精神について学びました。大学で学ぶことの意味や英語学習のあり方について考えるセッション、四年間を乗り切るためのチームビルディングや学生会主催のプログラムも行われました。そしてなによりも新入生を感動させたのは、先輩キャンプリーダーたちの後輩へ対する熱い思いと、彼らの頑張り様です。キャンプ後のキャンパスは、笑顔と元気な笑い声で溢れました。今年の新入生オリエンテーションキャンプも、先輩から後輩へと学生たちのスピリットが引き継がれていく、とてもエキサイティングな場となりました。

短期大学 2014年4月4日(水)

短期大学は、前年度より渡嘉敷島から場所を移し学内で実施、「建学の精神」「アカデミック」「人間関係の構築」のテーマを堅持しつつ、特に、「アカデミック・オリエンテーション」の一層の充実を図るコンセプトで進められました。

午前のプログラムは、開会礼拝と金城重明先生の講演後、英語科、保育科に分かれ、「アカデミック・オリエンテーションⅠ」を実施し、昼食は各アドバイザー・グループに分かれ、教員と学生のコミュニケーションを図りながら心通うお弁当の時間を過ごしました。

午後のプログラムは、午前を引き続き、各学科独自の「アカデミック・オリエンテーションⅡ」において講義やディスカッションがなされ、後半は、キャリア支援課、教務課、学生課による「学生生活について」説明があり、大学生活の道標として意義あるプログラムを実施しました。(短期大学部長 大山伸子)



2014年3月15日

卒業式・修了式

沖縄キリスト教短期大学(第56回)、沖縄キリスト教学院大学(第7回)卒業式が本学体育館で執り行われました。短期大学185名(英語科79名、保育科106名)、学院大学93名の卒業生に対し、中原学長より一人ひとりに卒業証書が授与されました。

当日の夕方には学生会が企画した卒業パーティがエリスリーナ西原ヒルズガーデンにて行われました。卒業生・在校生の出し物やスライドショー、教員からのビデオメッセージなど、4年間または2年間の学びや思い出を仲間とともに確かめ合いました。



サマー聖書キャンプ

2014年8月20日～22日

沖縄で聖書を読み、平和を考える

8月20日から3日間、本学学生6名、教員3名に、福岡女学院大学の学生4名を迎えて、サマー聖書キャンプを実施しました。期間中好天に恵まれ、1日目は本島中部の嘉手納基地見学(道の駅から)、読谷村の戦跡巡り、北山荘にてビーチ・アワー、聖書の学び、バーベキューを行いました。2日目は早朝から午後まで伊江島での平和学習を教育委員会の方の説明のもとに実施し、その後北山荘に戻って福岡女学院アワーを持ち、学生間の交流を深めました。3日目は、2回目の聖書の学びと閉会礼拝を行いました。今回はやや少なめの参加でしたが、その分、学びと親睦を深めることができました。特に米軍基地が集中する沖縄にあって聖書を皆で読み、将来の平和を真剣に模索できたことは有意義な体験となりました。なお、参加学生の感想は、『宗教部ニューズレター』第4号(本学HPに掲載)でご覧になれます。



アジア・フレンドシップ・アワー

2015年2月19日

ネパールに遣わされて  
—第2回アジア・フレンドシップ・アワー報告—

初回(2013年度)のアジア・フレンドシップ・アワーでは、ヴィセコイ・テツエオ牧師(沖縄第一バプテスト教会)をお招きし、有意義な学びと交流の時を持ちました。そこではインドのナガランド州の先住民族の視点から、当地のキリスト教の状況、歴史、文化等の興味深い紹介がなされました。

今回は、東風平巖牧師(小禄バプテスト教会)をお招きし、講演会と親睦会を持ちました。ネパールで8年半にわたり宣教活動をされていた体験から、現地のキリスト教会の現状や、最も多いヒンズー教徒との関わり、さらにはごみ問題に取り組んだ「エデンプロジェクト」のことを、とても熱心に分かりやすくお話くださいました。



クリスマス礼拝・祝会

2014年12月19日

厳粛さとアットホームな雰囲気の中で  
行われたクリスマス礼拝・祝会

第1部の礼拝では、聖書のクリスマス物語に沿って、日本語、うちなーぐち、諸外国語で聖書が朗読され、キャロルの合唱や説教が厳粛な雰囲気の中で行われました。今年も学生宗教委員、学生会、キリスト教芸術受講生の積極的な協力によって学生参加型の礼拝にすることができました。また礼拝の中では、エボラ出血熱に取り組むユニセフを含む、4団体へ尊い献金も捧げられました。

第2部の祝会では、2名の学生宗教員による創意ある司会のもと、美味しい食事を囲んで学生、教職員、本学関係者と共に楽しい交流と語らいの時を持ちました。今後とも本行事を通してイエス・キリストの降誕の理解、さらには学生、教職員、地域の方々との絆が深まってゆくことを望みます。協力者・支援者の皆様に感謝します!



後期キリスト教週間プログラム

2014年10月27日～31日

学生の独創性が発揮された後期キリスト教週間

今回はメイン行事として国際基督教大学・大学院教授の町田健一先生を講師にお迎えし、講演会を開催しました。町田先生は教育学およびキリスト教教育の視点から、現代社会の中で平和を創り出す者として一人ひとりの責任と役割の重要性を語って下さいました。特に本講演から、普段からの正確な情報把握とキリスト教教育が戦争への効果的な抑止力になるという示唆を強く受けました。また、10月28日に学生企画プログラムとして、聖書(『創世記』25:34)に登場するレンズ豆のスープを再現、調理して皆で賞味しました。弟ヤコブに長子の特権を譲ってしまった兄エサウの気持ちがわかる?ほど見た目も中身も上等なスープでした。学生の独創性がキラリと光るプログラムでした。



沖縄キリスト教平和研究所

平和研究所の一年

沖縄戦が終わったあと、廃墟の中から人々が立ち上がっていくためにどんな苦労があり、希望があったのかをキリスト教の歩みを振り返ることでたどる連続講座、現在第3シリーズ進行中です。

2013年から始まった「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」を夏に実施しています。全国から集まった学生と共に1週間近くの日程で、現地研修を含めて沖縄のことを学び、あわせて広島・長崎での平和への取り組みについて互いに学び合う機会を作っています。

平和研究所の学生グループ「TEAM琉球」。沖縄の歴史や平和に関する現在の様々な課題を学び、それを発信しています。そのひとつとして修学旅行生への戦跡ガイドがあり、中学生、高校生に沖縄戦の歴史を知ってもらうための活動をしています。また、FM21(FMレキオ同時放送)で、30分の放送で日頃考えていることを音楽と共に構成する週1回のラジオ番組を担当しています。



平和祈念公園「平和の火」を囲んで(Team琉球)

ハワイ研修・海外幼児教育研修

2014年度研修日程:2015年2月12日～28日

本学では、春季海外研修として約2週間の「ハワイ研修」、「海外幼児教育研修」を実施しています。

本研修では、協定校であるUniversity of Hawaii Kauai Community Collegeを訪問し英語のトレーニングはもちろんのこと、現地学生との交流、Hulaや工芸などのハワイ伝統文化の体験学習プログラムも用意されており、ハワイの温かいホスピタリティーを感じながらの他者理解力を身に付けることができます。また、各研修に特化して、英語コミュニケーション学科・英語科学生が参加する「ハワイ研修」では、ハワイの観光ビジネスについて学び、保育科学生の「海外幼児教育研修」では、ハワイの幼児教育施設を見学します。

参加した学生からは「全て英語での授業は難しかったが、逆にやる気も出て楽しかった。」「保育園訪問がとても楽しく、良い勉強になりました!!」等の感想や、本研修参加後、ハワイへの興味、異文化への興味が強くなり留学を決める学生もおり、参加学生の「世界」を広げるプログラムとなっています。



=ix= 国際交流友の会 沖縄の歴史・文化学習会2014

2014年6月7日

「=ix=(アイエックス)」は、本学在籍外国人留学生を中心とし、一般学生とともに学内外の国際交流イベントの実施や参加を行う友の会です。

毎年春に「=ix=」では歴史・文化学習会を実施しており、今年度はテーマを「琉球王国時代の国際交流に触れるツアー」としました。今回、「沖縄特例通訳案内士」資格を有するスタッフが、当日のガイドを行いました。午前中は、中国福州地方の伝統技法を用いた本格的中国式庭園の「福州園」を見学しました。続いて儒学の祖を祀る「孔子廟」や航海安全の守護神が祀られている「天妃宮」や「天尊廟」を訪れ、琉球王国時代からの沖縄と中国の繋がりについて紹介しました。午後は「首里城公園」に移動し、園内の世界遺産や各施設を見学しました。地元に住んでいると観光名所や史跡を巡る機会は意外と少ないものです。この歴史文化学習会を通して、参加した外国人留学生や一般学生にとって、満足度の高いツアーとなり、沖縄を世界に発信する力を養うきっかけとなりました。



第4回 ESD研修会

2014年12月6日

- パネリスト／古我知 毅氏(工房地球のかけら)、土屋 佳子氏(Casa Machilda)、渡口 直樹氏(国頭林業研究会)
- コーディネーター／張本 文昭(沖縄キリスト教短期大学 准教授)

本学ではASPUnivNetに加盟した2011年以降、沖縄県内の教育関係者を対象として、ユネスコスクールの普及とESD推進のためのESD研修会・ワークショップ開催などに取り組んでいます。

今年度は「豊かな『ところ』と『森』を育む『木育』」をテーマにESD研修会を実施しました。

前半はパネリストによる活動内容や木育との関わりについてご講演いただきました。後半はワークショップを展開し、木のおもちゃを作る、さわる、遊ぶ機会を通し、木育への理解と実践を深めました。今回、幼稚園・保育園関係者を中心とした多くの参加者があり、木育の教育効果に大きな関心をお寄せいただき、質の高い情報共有の時間を持つ事ができました。

※ASPUnivNetとは  
ユネスコ憲章に示された理念(教育・文化活動等を通じて世界の平和や安全に貢献すること)を学校現場で実践することを目的として設立された「ユネスコスクール・プロジェクト・ネットワーク」を支援するための大学間ネットワークです。



### 進路セミナー

2014年6月11日

全学科1年次を対象に、「進路セミナー」を開催しました。

進路セミナーは、学生支援部(学生課、キャリア支援課、国際平和文化交流センター)が一体となって開催し、学生生活の過ごし方を始め、進学、就職、留学と進路について早期に幅広く考えてもらう丸一日をかけたセミナーです。

午前中前半は、全学科共通プログラムとして「キャリアについて考える」をテーマに学生生活の過ごし方、女子学生のキャリア教育について学び、午後後半から午後にかけて、各学科に分かれ、自分自身が目指す進路についての情報収集や具体的なアクションの方法を学ぶ等、様々なプログラムが実施されました。特に、最後のプログラムである「OB・OGパネルディスカッション」では、OB・OGの皆さんから学生時代の学びが現在の仕事に活かしている事などを伝えていただき、学生にとって将来の進路について真剣に考える良い機会となりました。



### 就職宿泊キックオフセミナー

2014年11月1日～2日

四大3年次、短大1年次を対象に「就職キックオフ宿泊セミナー」を開催しました。

3月から始まる就職活動に向けた心構えや準備すべきこと等について、様々なプログラムを通して学ぶ1泊2日のセミナーです。

これまで就職活動解禁は四大3年次、短大1年次の12月でしたが、2016年卒業者より3月解禁と、3カ月後ろ倒しとなります。学生は、就職活動期間が短縮される影響とこれまでの就職活動との違いを理解し、3月までの準備期間の過ごし方の重要性を学ぶとともに、3月以降の就職活動について自らイメージできるよう、情報収集の方法や、業界研究、企業研究、筆記試験等、就職活動に必要な要素を学びました。業界研究においては、県や各業界を代表する企業から講師をお招きし、国際物流、航空業界、ホテル業界、流通小売業界についてお話をいただき、各業界への理解を深め、興味の対象、視野を広げることができました。また、セミナー全体を通して、あらためて「働く」ことを真剣に考え、今後の就職活動に対する意欲を高める良い機会となりました。



### 東京中小企業家同友会主催 元山和仁記念「社長弟子入りツアー」

2014年9月15日～20日

「社長弟子入りツアー」に本学から4名の学生(英語コミュニケーション学科3年次、玉城朱梨さん、渡具知武蔵さん、英語科1年次の當眞千秋さん、山本莉菜さん)が参加しました。同ツアーは、通常のインターンシップとは異なり、第一線で活躍されている東京の中小企業の経営者お二人に数日間密着し行動を共にすることで、経営者の企業経営に対する考え方や理念に間近に触れ、ビジネスの最前線を肌で体験することができるプログラムとなっています。ツアーを終えた参加者は、「社会の情報について知ること」「社会人としての敬語やビジネスマナー」「目的意識を持って一つひとつのことに取り組む」「経営者の視点や考え方」など多くのことを学ぶ事ができたようです。今回参加したことで、中小企業に対するイメージも大きく変わり、また様々な業種に触れたことで、学生たちの今後の就職活動に大いに役立つ事業となりました。



### 学習支援センター

学生の皆さん、勉強していても思うように伸びない、効果的な勉強のやり方が分からないなど、悩んでいませんか。

まずは目標を設定し、その目標を達成するための具体的なメニューを作成し、それを着実に続ける学習計画を立てることから始めましょう。学習支援センターでは、目標設定の方法、学習メニューの作り方など具体的にサポートいたします。どうぞ、気軽に足を運んでください。2015年度は、右の講座の開設を予定しています。

#### 小論文対策講座

対象/採用試験で小論文を課される公務員試験等の受験を予定している学生あるいは小論文の作文能力をアップさせたい学生

#### 論理的思考能力養成講座

対象/勉強が好きになりたい学生、自分の賢さに自信が持てるようになりたい学生

# cafe 特集

学生が集うSHALOM会館Cafeラウンジでは、様々なイベントが開催されています。学生は、Cafeのリラックスした雰囲気の中、英会話を楽しんだり、就職活動やその準備に取り組んでいます。

### Scafe



就職における筆記試験には、一般常識試験やSPI試験等がありますが、文系学生にとって最も苦手とする科目である「数学」の問題が確実に出題されます。その苦手科目を克服するための数学基礎講座が「Scafe」(SPI、数学のS)です。Scafeは、琉球大学情報工学科と情報工学専攻の学生がボランティアで講師となり、マンツーマンの家庭教師スタイルでCafeラウンジを利用して、週1回、数学を学びます。Scafeに通い続けた学生のほとんどが、人気企業、難関企業への就職を決めています。お互い違う分野を学ぶ他大学の学生と交流するという意味においても、非常に有意義な課外講座となっています。

### キャリアCafe



「キャリアCafe」は、従来の企業説明会とは異なり、少人数の学生を対象に、Cafeラウンジのテーブルを企業の人事担当者と囲み、ざっくばらんにコミュニケーションを取りながら企業を理解していくスタイルの説明会となっています。

『SEATTLE ESPRESSO』の美味しいコーヒーを飲みながらリラックスした雰囲気の中、会話が弾みます。キャリアCafeをきっかけに、参加企業へ応募し内定を獲得した学生も数多く、参加した企業様からも好評です。

### マッチングCafe



「キャリアCafe」は企業理解と応募への誘導を主な目的としていますが、「マッチングCafe」は企業説明会と採用試験をセットで実施する内定直結型の就活イベントです。参加企業様には、企業説明会をキャリアCafe同様コミュニケーション重視のスタイルで実施していただき、後日採用試験を原則学内で実施していただきます。複数の学生が「マッチングCafe」で内定に繋がりました。

### Tcafe



学生にとっては、「就活って何から始めれば良いの?」、「就職したい企業がイメージできない。」等、就職に対する不安や疑問が沢山あります。そんな漠然とした不安や疑問をじっくり話し合うことで解消しつつ、就活に向けての目標を立てていくのが「Tcafe」(TalkのT)です。また、既に内定を獲得した先輩方や、OB・OGの皆さんを招いてお話を聞く等、学生の要望に応えながら企画しています。

### English Lunch Table

ランチタイム英会話、イングリッシュランチテーブルは2009年に開始され、今も続いています。毎週5～20人の学生と多くて5人の先生がSHALOM会館のCafeで英語で交流しながらランチ会を開催しています。学生にとってはリラックスした雰囲気の中、英語学習についてや、授業中に聞けないような素朴な質問などをしたりして教授と学生の関係を密に保ちながら、お互いの理解(文化など)を深めています。このランチ会はケーブル番組OCNのローカルチャンネル、沖縄タイムスでも取り上げられ、注目を集めています。英語が上達した本学の卒業生も、積極的に参加していました。



# 2014年度 おもな図書館行事

## ■ 図書館主催講演会

沖縄キリスト教学院図書館主催講演会「三浦綾子文学と平和～三浦綾子、デビュー作『氷点』から50周年～」(共催/沖縄キリスト教平和研究所)が開催され、学内外から50名ほどの参加がありました。

講演会に合わせて関連図書を図書館ロビーに展示しました。

三浦綾子記念文学館の特別研究委員であり、国内外の約90ヶ所で行われている三浦綾子読書会代表の森下辰衛先生による講演会を開催しました。三浦綾子文学が幅広い世代に読み継がれデビューから50年たった今でも愛され続ける魅力を講演してくれました。

日時/2014年11月13日(木)19:00～20:30

演題/三浦綾子文学と平和～三浦綾子、デビュー作『氷点』から50周年～

講師/森下辰衛氏

(三浦綾子記念文学館特別研究員・三浦綾子読書会代表・元福岡女学院助教授)

場所/SHALOM会館1-1教室

関連図書展示/2014年11月4日(火)～22日(土)



## ■ 図書館主催フェア

2014年度は、4月から12月まで毎月、図書館主催「フェア&講演会」を開催しました。

それぞれのフェアにあった図書が図書館を飾りました。

4月 「就活」、まずは「本」でイメージしよう(春の就活フェア)

5月 5月に、図書館?

6月 日英翻訳図書フェア

7月 青春、味わう、物語。(小説フェア)

10月 大学時代に、何してる?大学卒業後は、何をしています?

(秋の就活&留学フェア)

11月 三浦綾子文学展

12月 クリスマス絵本展



5月「5月に、図書館?」



6月「日英翻訳図書フェア」



7月「青春、味わう、物語。(小説フェア)」

## ■ 就活&留学フェア

キャリア支援課と図書課が協力企画し開催している「就活フェア」に、新しく国際平和文化交流センターを加え、「大学時代に、何してる?大学卒業後は、何をしています?(秋の就活&留学フェア)」を10月に開催しました。

関連図書を一同に集めることにより、自分の進路(就職・進学)について想像しやすいよう順路を工夫しました。

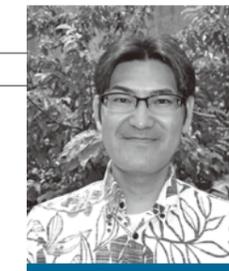


## 採用教員メッセージ

### 仕える喜びを味わいながら

英語コミュニケーション学科 准教授

#### 大城 直人



高校の英語教師を10年務め、昨年4月より沖縄キリスト教学院大学に着任致しました。キリスト教を建学の精神に掲げる本学では、「月曜礼拝」によって1週間がスタートし、「会議」も祈りから始まります。神の存在を身近に感じ、主に仕える喜びを味わいながら働くことができることに、大きな魅力を感じています。このような環境の中で教育及び研究に従事できる機会を与えて頂いたことに、心から感謝しております。

私は、教職課程の「英語科教育法」を中心に、「英語講読」等も担当しておりますが、日々の授業の充実を図ることに注力してきたこの1年は、「教えることは最大の学び」、「教師は生徒(学生)によって生かされている」という教育における1つの真理を再認識した1年でもありました。学生たちの真剣な眼差し、活発な議論、核心を突いた質問、優しさ、そのどれもが、日々の教育に傾倒する原動力となりました。また、受け入れる側から送り出す側へと立場が変わった教育実習では、学生たちの熱心な姿、著しい成長にこの上ない喜びを感じました。

今後も、高校における英語の指導経験を踏まえ、理論と実践の両面から教員養成に携わって参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

### Think Globally, Act Locally, Change Personally.

英語コミュニケーション学科 講師

#### 玉城 直美



大学生の頃に、平和をテーマに中国、韓国の学生・若者と船に乗り、中国、韓国を訪問、平和についての学び合いが海外初体験でした。大学を卒業し、海外をもっと知りたいと願い、青年海外協力隊員として中東のヨルダン国に派遣され、パレスチナ難民の子どもたちの活動に関わるお手伝いをしました。その頃は、パレスチナ、イスラエル国の紛争、米国のイラクへの空爆が激しく行われていました。しかし私の印象的なシーンの一つに、モーゼが終焉の地とされる死海を臨む丘の教会付近で、イスラム教徒、キリスト教徒が共にクリスマスを祝う姿がありました。住民の本来の姿が今でも忘れられません。

世界で起こっている紛争、貧困、開発の課題に関わる私でありたいと願い、ずっと外へ外へと向いていた私の視点でした。しかし最終的に沖縄の足元でしっかり私が生きていくことが世界の人とつながり、平和を作る一歩なのだ気がついた30代、この大学で非常勤講師として教鞭をとりながら、沖縄のNGO活動に携わってきました。そして、縁があって、本学の教員として新たな一歩を踏み出すことになりました。気持ちはグローバルに、行動は沖縄で、そして変化し続ける私でありたいと願っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 研究助成費獲得による研究活動

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学では、沖縄キリスト教学院特別研究助成費や外部資金による研究活動が行われています。2014年度の獲得結果は次のとおりです。

### 科学研究費助成事業

- [継続(研究分担者)] 交錯するまなざしー琉球・沖縄をめぐる欧米のトラベルライティングの総合的研究 (浜川 仁)(研究代表者:名桜大学 山里 勝己)
- [継続(研究分担者)] 近代日本における教育情報回路と教育統制に関する総合的研究 (照屋 信治)(研究代表者:岐阜女子大学 梶山 雅史)

### 益信託 宇流麻学術研究助成基金

- 沖縄学の検討・評価に関する基礎的研究  
ー近現代沖縄教育への影響という視点からー (照屋 信治)
- 希土類金属間化合物の輸送特性 (内間 清晴)
- 保育者養成におけるリアリスティック・アプローチを用いたリフレクションに関する研究 (赤嶺 優子)

## 沖縄キリスト教学院大学名誉教授称号授与

2014年4月1日、山里恵子元人文学部英語コミュニケーション学科教授に、本学院への多大な功績に対し、沖縄キリスト教学院大学名誉教授の称号が与えられました。  
(左から) 神山理事長、山里名誉教授、中原学長



## ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞授与

近藤功行 英語コミュニケーション学科教授に独立行政法人日本学術振興会より平成26年度「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」が表彰され、2014年7月4日(金)本学学長室にて授与式を行いました。この賞は、今年度、全国で30名の候補者が選ばれ、近藤教授は2009年～2013年連続5回にわたり「ひらめき☆ときめきサイエンス」のプログラムを実施した功績が認められ、この度表彰されることとなりました。  
(左から) 神山理事長、近藤教授、中原学長



## 2014年度人事

2014年4月1日～2015年3月31日

### ◆教育管理職

【任期:2016年3月31日まで】  
金永秀 人文学部長(再任)  
大山伸子 短期大学部長(再任)  
青野和彦 宗教部長(再任)  
内間清晴 図書館長(再任)

【任期:2015年3月31日まで】  
武村朝吉 教学支援部長  
(学習支援センター長兼務)

### ◆沖縄キリスト教学院大学

【昇任】(4月1日付け)  
新垣誠 教授(准教授)  
浜川仁 教授(准教授)  
【採用】(4月1日付け)  
照屋信治 准教授  
(任期教育職員⇒専任採用)  
大城直人 准教授(任期教育職員)

【採用】(10月1日付け)  
玉城直美 講師(任期教育職員)

### ◆沖縄キリスト教短期大学

【採用】(4月1日付け)  
山城真紀子 特任教授  
Michael Bradley 英語科助教(外国人契約教育職員)

【異動】(4月1日付け)  
上原明子 英語科教授(総合教育系教授)  
城間仙子 総合教育系准教授(英語科准教授)  
【昇任】(4月1日付け)  
青野和彦 教授(准教授)

### ◆沖縄キリスト教平和研究所

【任期:2016年3月31日まで】  
大城実 所長  
金井創 嘱託研究員

### ◆学習支援センター

【採用】(4月1日付け)  
糸洲理子 講師(任期教育職員⇒専任採用)

### ◆事務職員

【採用】(4月1日付け)  
与那覇明弘 事務局長(再任)  
多根宏治 図書課長(任期事務職員⇒専任採用)  
新垣桂子 学生課主任(任期事務職員⇒専任採用)  
米須瑠美子 教務課書記(任期事務職員⇒専任採用)  
【昇任】(9月1日付け)  
金城繁正 企画推進課長(企画推進課主任・課長代行)  
【異動】(4月1日付け)  
仲間末美 図書課長(入試課長)  
多根宏治 入試課長(図書課長)  
金城太 企画推進課書記(教務課書記)  
内間貴士 学生課書記(入試課書記)

## 2013年度決算報告

2013年4月1日から2014年3月31日まで

### 資金収支計算書

(単位:円)

資金収入の部		資金支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生納付金収入	718,369,010	人件費支出	583,812,339
手数料収入	17,240,900	教育研究経費支出	170,511,840
寄付金収入	20,306,244	管理経費支出	34,801,955
補助金収入	159,490,736	借入金等利息支出	2,795,008
資産運用収入	9,677,441	借入金等返済支出	36,000,000
事業収入	4,122,770	施設関係支出	575,325
雑収入	52,707,909	設備関係支出	27,237,165
前受金収入	329,736,910	資産運用支出	65,000,000
その他の収入	17,219,232	その他の支出	18,975,286
予備費			
資金収入調整勘定	△ 389,724,227	資金支出調整勘定	△ 43,971,417
前年度繰越支払資金	1,070,575,482	次年度繰越支払資金	1,113,984,906
収入の部合計	2,009,722,407	支出の部合計	2,009,722,407

### 消費収支計算書

(単位:円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生納付金	718,369,010	人件費	584,352,863
手数料	17,240,900	教育研究経費	270,739,958
寄付金	20,779,265	管理経費	44,656,012
補助金	159,490,736	借入金等利息	2,795,008
資産運用収入	9,677,441	資産処分差額	16,739,402
事業収入	4,122,770	予備費	
雑収入	52,707,909		
帰属収入合計	982,388,031	消費支出の部合計	919,283,243
基本金組入額	△ 76,602,577	当年度消費支出超過額	13,497,789
消費収入の部合計	905,785,454	前年度繰越消費支出超過額	486,143,824
		翌年度繰越消費支出超過額	499,641,613

### 貸借対照表

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	3,334,401,636	固定負債	380,321,435
有形固定資産	2,789,606,740	流動負債	428,063,946
土地	943,772,604	負債の部合計	808,385,381
建物	1,151,484,894	第1号基本金	3,992,240,932
その他の有形固定資産	694,349,242	第2号基本金	100,000,000
その他の固定資産	544,794,896	第3号基本金	30,000,000
流動資産	1,163,583,064	第4号基本金	67,000,000
現金預金	1,113,984,906	基本金の部合計	4,189,240,932
その他の流動資産	49,598,158	消費収支差額の部合計	△ 499,641,613
資産の部合計	4,497,984,700	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,497,984,700

2013年度決算について報告いたします。

計算書類は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されており、資金収支計算書は、当該会計年度の研究及びその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支内容及び均衡の状態を示し、学校法人の経営状態を明らかにしたものです。

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。

## 寄付感謝報告

寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。  
寄付指定(2014年1月1日～12月31日まで)

個人(33件/¥14,205,882) 団体(34件/¥11,981,001) 合計(67件/¥26,186,883)

施設設備資金		
同窓/在学生	3	657,000
一般	1	10,000
団体	4	246,000
宗教	2	33,000
宗教団体	7	218,000
学校関係者	6	287,530
教職員	1	230,000
同窓会	1	600,000
後援会	1	5,315,000
合計	26	7,596,530

奨学金		
一般	2	1,500,000
企業	9	610,000
団体	1	100,000
宗教団体	2	300,000
学校関係者	1	300,000
教職員	4	1,040,000
同窓会	1	600,000
後援会	1	3,010,000
合計	21	7,460,000

国際交流		
一般	1	500,000
宗教団体	1	10,000
教職員	1	30,000
合計	3	540,000

沖縄キリスト教平和研究所		
宗教	1	50,000
教職員	1	1,950,000
合計	2	2,000,000

学生会活動援助費		
同窓会	1	300,000
後援会	1	200,000
合計	2	500,000

その他		
企業	1	60,000
団体	2	53,500
宗教団体	1	358,501
学校関係者	1	300,000
教職員	2	656,733
合計	7	1,428,734

学部・学科設置		
同窓/在学生	1	100,000
一般	2	5,500,000
学校関係者	2	61,619
教職員	1	1,000,000
合計	6	6,661,619

## 同窓会・後援会

### ホームカミングデー

2014.11.8

キリ学祭初日、同窓会は『ホームカミングデー』を開催しました。同窓会の活動を周知させたい思いで、毎年恒例にしていこうと、2012年から継続の第3回ホームカミングデーです。

今年度は特別な企画はせずに、キリ学祭の見学者(同窓生を中心に)休憩場所としてご利用頂けたらと、SHALOM会館ラウンジから北棟のユニオンに場所を移して、湯茶サービスのブースを用意しました。評議員ほか少数名の来場でしたが、古き良き短大の歴史を知る方々ばかり、学院の支援と同窓会の今後のイベントのモチベーションに思い巡らしつつ、和やかに楽しいユンタクのひと時を過ごしました。

また他の継続活動としては、奨学金授与やキリ学祭援助、新旧

学生会役員の皆さんとの懇談会、新入生への記念品(4色ペン)や卒業証書ホルダー贈呈、就活支援など、直接・間接に学院や学生支援の事業を行ってきました。そういうわけで在学生の皆さんにも何かと関わりがありますので、ぜひ同窓会の活動に関心を寄せて頂けたらと願っております。

そして後援会でも、本学院の目的や事業に協力し、学院の維持発展と学生の福祉増進に寄与する目的がありますので、同窓会と連携して事業を進めております。

卒業と同時に新規同窓会員となる学生の皆さん、ぜひ学院の為に、知恵と力を出し合い共に協力していきましょう。同窓会では若い皆さんの参画をお待ち致しております。



### 同窓会からのお願い

同窓会ではデータによる会員名簿の整備を進めています。

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④勤務先 ⑤学籍番号  
の変更等をお知らせください。

【連絡先】同窓会事務局

電話/FAX:098-946-1280

E-mail:dousoukai@ocjc.ac.jp

# Open Campus 2015

キリ学・キリ短のキャンパスライフを体験してみませんか!?

各学科の体験授業や、入試・奨学金・留学・就職などの各種相談コーナー、  
大学生によるキャンパスツアーなど様々な企画で皆さんをお迎えいたします。  
沖縄本島内は、無料送迎バスを運行いたしますのでお気軽にご利用ください♪  
高校1~3年生、保護者、一般の方、どなたでも参加可能です。  
皆さんのご参加を心よりお待ちしております。

第1回

6/6(土)

13:00~16:00

第2回

6/27(土)

13:00~16:00

第3回

7/18(土)

13:00~16:00

★詳細はwebでチェック!!



## 大学見学

個人から団体(高校単位)まで大学見学を受け付けています。  
本学スタッフによるキャンパスツアーをはじめ、ご希望に応じて、「英語」や  
「保育」のミニ体験授業などを実施いたします。  
見学をご希望する方は、事前に入試課までご連絡ください。  
日程やプログラム等内容を調整させていただきます。

連絡先: 教学支援部 入試課 ☎ 098-945-9782



※2014年度 見学者数 300名以上

